

技の肖像



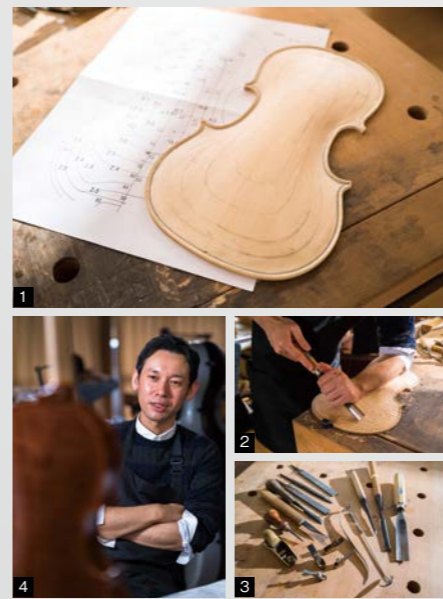
表面にニスを塗り、艶やかに仕上げる安富成巳さん

ヴァイオリン職人

透明感のある高音を美しく響かせる。オーケストラには欠かせない弦楽器の一つであるヴァイオリンは、16世紀に完成された形で誕生したと言われている。「何世紀も前にイタリアのクレモナで製作された楽器に理想の形が存在します。しかし、その製作技法は失われた部分が多く、ヴァイオリン製作は昔の巨匠の作品を研究し、再現する仕事という側面もあるでしょう」と安富成巳さんは説明する。

理でお世話になった職人の姿から、音楽を支える仕事に魅力を感じました。大学を卒業後、国立音楽院（東京都）でヴァイオリン製作の基礎を学んだ。そしてイタリアに渡り、ヴァイオリン製作の聖地クレモナでおよそ5年間経験を積んだ。帰国後、山形市内で工房を構えた安富さんのもとに、かつて学んだ国立音楽院から講師の依頼が届いた。「自分の演奏経験を生かし、演奏者の気持ちに寄り添った楽器製作の技術を伝えたい」との思いから、2017年に開校した宮城キャンパス（加美町）で学生の指導にも情熱を注ぐ。

ヴァイオリン職人が目指すのは、過去の作品をただ再現する事だけに留まらないと思っている。「なぜ今も変わらずぬ形で人を魅了し続けられるのか。巨匠が残した作品を手掛かりに、楽器の『美』とは何かを追究しているのかもしれない」



①表板の曲面は、実物から解析された図面に基に再現する ②「丸のみ」を使って表板の粗削りを進める ③ヴァイオリン製作には様々な道具が使われている ④ヴァイオリンの完成度について、「デザインに少しアレンジを加えて製作してみても、最終的には伝統的な形が良いと感じてしまう」と話す

問い合わせ
国立音楽院 宮城キャンパス

加美郡加美町上多田川笹沢東1-1
TEL 0229-25-5461
https://kma-miyagi.com/



小中学生がものづくりと科学の楽しさを体感 第6回サイエンスプラス

9月28日、東北職業能力開発大学校（栗原市）で「サイエンスプラス」が行われた。県内の小中学生と保護者が、地元企業や高校生、同大学校などが企画した22のプログラムを体験した。

今回初めて出展したモリタ宮田工業株式会社栗原工場は、同社が製造する消火器の操作体験コーナーを用意。参加した小中学生は、消火薬剤の代わりに水を充てんした消火器を使って、倒すゲームに挑戦した。



消火器の操作体験の後、火が消える仕組みなどについて社員が説明した



空気中の酸素を液体化するなど、生徒は液体窒素を使った様々な実験で魅了

自然科学部のブースでは、「不思議な科学実験室」と題して、生徒が液体窒素を使った実験や、空き缶を使った綿菓子づくりなどを行った。生徒は、「小学生でも楽しめる実験を考えると準備を進めてきました。子どもたちの反応も良くて、喜んでくれたのでうれしかった」と話した。

優れた技術と現場の雰囲気を感じ 高校生向けものづくり企業見学会

10月1日、株式会社ウチダ仙台工場（岩沼市）に、古川工業高等学校（大崎市）の機械科2年の生徒が訪れた。宮城県が実施している「高校生向けものづくり企業見学会」の一環で、生徒は事業内容の説明や工場見学を通して、ものづくりの仕事への理解を深めた。

自動車部品のプレス加工などを手掛ける同社の佐々木泰孝社長は、「よそにはないコアな技術を極めることができることや、マルチプレイヤーを目指すことができることが、中小企業で働く魅力です。今後の進路選択の参考にしてください」と生徒に呼び掛けた。



工場見学では、生徒が現場を回りながら、社員の説明に耳を傾けた

木泰孝社長は、「よそにはないコアな技術を極めることができることや、マルチプレイヤーを目指すことができることが、中小企業で働く魅力です。今後の進路選択の参考にしてください」と生徒に呼び掛けた。

参加した生徒は、「高品質な製品を効率良く作るための素晴らしい技術を知ることができました」と話した。同見学会は、今年度で12回目の実施。昨年度は19校の生徒が、のべ82社の企業を見学した。

高校生が日頃の取組を紹介 第28回工業専門部生徒活動成果発表会

11月16日、古川工業高等学校（大崎市）で第28回工業専門部生徒活動成果発表会が開催された。県内の工業系部活動などに所属する生徒が、日常の活動や研究



県大会で優勝したロボットの仕組みを説明する登米総合産業高の生徒



発表後に審査員からの質問やアドバイスを受ける古川工業高の生徒

の成果を発表するもので、今年度は、4つの高校から9団体が参加した。

登米総合産業高等学校の機械工作部の生徒は、全国高等学校ロボット競技大会

に挑戦した取組について発表。県大会優勝を目標に、「初の試みとして2チームで参加した」と説明した。優勝と3位という結果に「2チームでロボット開発に取り組んだことで、互いにアイデアや課題、進捗よく状況を共有できたことが好成績につながりました」と考察した。

また、新潟県で行われた全国大会では予選を通過できなかったことも報告。全国で戦うためにさらに知識と技術が必要」と話した。

「宮城の名工」7人らを表彰 令和元年度宮城県職業能力開発関係表彰式

11月28日、宮城県内の産業の振興・発展に寄与した技能者などを表彰する「宮城県職業能力開発関係表彰式」が県庁で行われた。同表彰式では、卓越した技能で業界の振興に貢献した

「卓越技能者（宮城の名工）」の7人と、技能の研さんに励んでいる「青年技能者」の8人が表彰された。

卓越技能者の表彰を受けた、株式会社竜門園（仙台市）の齋藤健さんは、石組みの高い技能や後進の育成を通して、業界の振興に積



板金工やこけし製造工など様々な技能者が「宮城の名工」の表彰を受けた



青年技能者を代表して表彰を受ける千葉雄喜さん

極的に貢献している点などが評価された。

青年技能者の表彰を受けた、株式会社登米精巧（登米市）の千葉雄喜さんは、汎用フライス盤とNC工作

機械による超精密部品や異形状部品加工を実践する高い技能、材料や部品の形や特性に合わせた加工条件の調整・最適化を行う技能などが評価された。